



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



第50回歯科基礎医学会開催される

準備委員長 上條 竜太郎

9月23日～25日, TOC 有明コンベンションホールにおいて, 「第50回歯科基礎医学会学術大会・総会」が, 「歯科基礎医学が発信する21世紀のオーラルバイオサイエンス」をメインテーマに開催されました。歯科基礎医学会は歯科基礎医学の総合学会で解剖学, 生理学, 生化学, 微生物学, 病理学, 薬理学の6部門からなり, 各大学持ち回りで学術大会を開催しております。本年度は歯科基礎医学会発足50周年にあたり, 学術大会を「50周年記念大会」として開催され, 通常の学術大会プログラムに加えて様々な記念行事が開かれましたが, この記念大会を立川哲彦会頭(口腔病理学)のもと, 本学歯学部が主催しました。

大会1日目の午前には, 7題のサテライトシンポジウムが開催され, 午後からの日本学術会議主催シンポジウム「基礎歯科医学の人材育成」では, 基礎分野における人材育成の問題点が昨年の大会に引き続き議論されました。また, 学生ポスター発表のセッションが開催され, 全国から集まった26人の歯学部学生が日頃の研究成果を発表しました。発表終了後, 立川会頭より「学生ポスター発表賞」が6名に授与されました。



2日目には, 歯科基礎医学会創立50周年記念式典が開かれ, 山田好秋歯科基礎医学会理事長の式辞の後, 江藤一洋日本歯科医学会会長, 大久保満男日本歯科医師会会長, 新木一弘文部科学省高等教育局医学教育課長, 日高勝美厚生労働省医政局歯科保健課長, 浅島誠日本学術会議副会長, 中原泉日本私立歯科大学協会会長の祝辞が述べられました。次に, 学会功労者の表彰が行われ, 功労者を代表して脇田稔北海道大学理事・副学長の挨拶が行われました。さらに, 歯科基礎医学会学術大会にご協力いただいているライオン株式会社, 株式会社モリ

タ, 株式会社ロッテに感謝状が贈呈されました。式典に引き続き, 長田重一京都大学大学院教授の記念講演「アポトーシスと死細胞の貪食」が開かれました。その後, 有明ワシントンホテル東京ベイにおいて創立50周年記念祝賀会が開催され, 大阪芸術大学教授の川井郁子氏による祝賀演奏に引き続き, 細山田明義昭和大学学長より御祝辞を賜りました。

3日目には, 小柴昌俊東京大学特別栄誉教授(2002年ノーベル物理学賞受賞)の記念講演「やれば, できる。」が行われました。



その他, シンポジウム18題, ワークショップ7題, ランチョンセミナー4件, 企業展示20件が開催され, 最新の研究手法, 機器等が公開されました。

学会参加者数はのべ約4500名, どの会場も活気に満ちた学術大会でした。学術大会の規模はあらゆる点で例年とは比べものにならないもので, 準備期間にほぼ2年を費やしましたが, 結果的には創立50周年を飾るにふさわしい記念大会とすることができました。本学術大会を成功裏に終了できましたのも, 基礎, 臨床を問わず, 献身的にご協力いただいた教職員, 大学院生の皆様のおかげです。ここに, 準備委員会・学会事務局を代表して深く感謝申し上げます。(写真: 昭和大学フォトセンター撮影)

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 11月8日(土): 歯科病院公開講座
- 11月9日(日): 推薦入学試験, 編入学試験(2年次)
- 11月14日(金)～16日(日): 日本歯科医学会
- 11月15日(土): 昭和大学創立80周年記念式典・祝賀会
- 11月29日(土): 父兄会
- 12月6日(土): 第28回昭和歯学会例会, 大学院入学試験

昭和大学大学院アドミッションポリシー が制定されました

大学院歯学研究科運営委員会 上條竜太郎

アドミッションポリシーとは、聞き慣れない言葉ではありますが、入学者に求める能力や適性についての基本方針で、学生受入れ方針、入学者選抜方針と理解されています。近年、多くの大学、大学院が相次いで、アドミッションポリシーを制定しています。

本学でも、大学院研究科のさらなる充実を目指して、以下の通り「昭和大学大学院アドミッションポリシー」が制定されました。まもなく、本学ホームページその他に掲載されます。

昭和大学大学院アドミッションポリシー

昭和大学大学院は「至誠一貫」の精神をもとに、より高度な医療や研究に邁進し、人類の幸福に貢献する人材の育成をめざしています。

入学選抜にあたり、私共は次のような多様な学生・社会人を広く求めます。

1. 医療・健康・生命科学の専門知識を深く追究する意欲のある人
2. 常に探究心を持ち、先進的な医療を担う意欲のある人
3. 自らの活動領域を拡げ、医系総合科学を発展させる意欲のある人
4. さまざまな分野の専門家と共に、先端的・独創的な研究を志す人
5. 社会での実践から得た知識と経験を体系化し還元する意欲のある人
6. 国際的視野を持ち、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
7. 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性を持つ指導者を志す人

昭和大学ホームカミングデーが 開催されました

歯科理工学教室 玉置 幸道

10月12日に昭和大学50周年記念会館にて、第1回のホームカミングデーが盛大に開催されました。ホームカミングデーといわれても、ピンとこないかもしれませんが、これは同窓祭とも呼ばれ、同窓生に感謝の意を表する行事として知られているそうです。今回が初の試みということで、医学部の卒業50年



(ゴールドと称される)および25年(シルバーと称される)の同窓を招待年度生としました。他の学部では卒業後25年の医学部生と富士吉田が同期であった歯学部1回生、薬学部14回生が第1回の招待年度生となりました。

初めての試みでしたが、事務の方々と各同窓会の多大な協力の結果、3学部で約150人もの参加者を集めることができました。当日は学長、理事長、各学部長をお招きして式典が進行し、今回の招待年度生に該当する歯学部の飯島裕之同窓会長が卒業25年を代表して挨拶をされました。その後、懇親会へと進み、旧交を温める風景や写真撮影がところどころで繰りひろげられ、楽しい時間を過ごすことができました。



招待年度の同窓生には学園祭で使える1000円分の金券が渡され、久しぶりの母校を訪れて模擬店を楽しむ光景も見られました。

来年は歯学部2回生が担当となるため、矯正科・榎教授と歯科麻酔科・五島講師に無理を承知で参加を懇願し、その雰囲気を楽しませていただきました。この時期の『学部横断型同窓会』として根付いていき、昭和大学にとって意義深い催しとなることを切に願う次第であります。

薬学部の英語 e-learning 教材が使えます

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

薬学部の戸部教授、本田教授をはじめ諸先生方のご厚意で、英語 e-learning 教材 (ALC NetAcademy 2) を使えるようになりました。スーパースタンダードコースと医学英語があり、スーパースタンダードコースは8段階のステップ学習で、リーディング、リスニングを学習、さらに TOEIC テストに準拠したミニテスト形式の模試で、実践力をつけることができます。医学英語コースでは、医師と患者の会話形式リスニング、医学関連記事のリーディング、基本医学語彙を学習し、医学分野の基礎的な語彙力を身につけられます。いずれもまず15分程度のレベル診断テストを行い、自分に合ったコースの選択ができます。一度 ID とパスワードを取得すれば、インターネットが繋がるところであれば、いつでもどこでも気軽に英語が学習できます。教員、大学院を含む学生、職員どなたでも無料で使えますので、気軽にご相談ください。連絡先: 歯科医学教育推進室 馬谷原助教 (3784-8157)

歯学部オープンキャンパスが開催されました

歯科薬理学教室 山田 庄司

平成20年度の第3回目となる歯学部オープンキャンパスが平成20年9月14日(日)、旗の台キャンパスで行われました。第1回(8月2日)と第2回(8月23日)は洗足キャンパスにて歯科病院の見学会が行われましたが、今回は歯学部の模擬授業を受験生に聴講してもらいました。

当日は35組の受験生希望者とその父兄が参加し、13:00から500号教室にて、宮崎歯学部長の挨拶に続き、歯学部教育の特色、卒後の進路、富士吉田教育部での学生生活、平成21年度歯学部入学試験について、1時間の全体説明会が行われました。10分の休憩を挟んで、中納准教授(歯科矯正学講座)の「矯正歯科の最新事情－昭和大学矯正歯科の特色－」と題する50分間の模擬授業が行われました。模擬授業では歯科病院のコーンビームCTによる顎骨や歯列の3次元画像を活用した、最新の歯科矯正治療が紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。模擬授業終了後には隣のPBLルームに分かれて、個別相談会が行われました。

なお、本年度は11月30日(日)に第4回目の歯学部オープンキャンパスが予定されています。この時は、駿台予備校の講師による入試問題解説授業や在学生とのフリートークを予定しています。

ステューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムに参加して

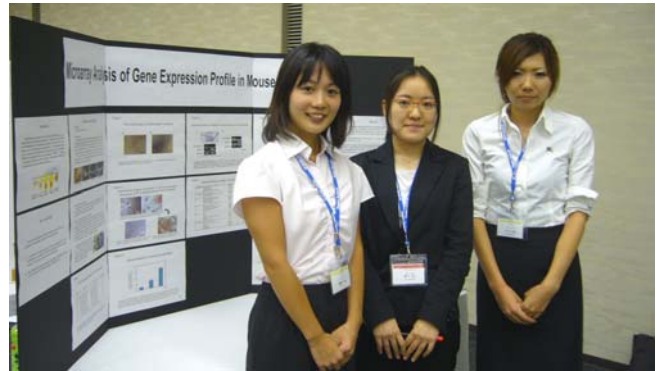
歯学部第4学年 堀内 裕子

8月20日、日本歯科医師会館において行われたステューデント・クリニシャン・リサーチプログラム(以下SCRIP)に参加してまいりました。今回このSCRIPには、北は北海道医療大学から南は鹿児島大学まで、全国の歯学部・歯科大学19校からの参加がありました。SCRIPに参加して最も得るところが大きかった点は、研究内容を人前で発表するという経験もさることながら、他大学の学生と広く交流できたことでした。参加者との交流の中で、『研究入門』のような昭和大学独自のシステムの素晴らしさを確認し、また、他大学の様々な教育の特色も知ることができました。

さらに過去に参加された先生方からアメリカ本大会のお話などを伺い、アメリカの歯学会がどのようなものなのか、その端緒にも触れることができました。普段の学生生活では目の前の勉強に追われがちですが、その中でこの大会に参加したことによって、日本全国そしてアメリカへ、と視野を外に向けて物事を考えることが身に付いたように感じます。

最後に、今回このような得がたい機会を与えて下さった先生方、お忙しい中発表の準備を手伝ってくださ

った先生方、学友たちにこの場を借りて深く御礼申し上げます。



D2 歯科臨床コース: 歯科医院の現状と将来像 実習

歯周病学教室 須田玲子、山本松男

今年度から新たに2年生の希望者を対象にした歯科臨床・臨床入門(医院実習)が導入されました。専門課目の学習を開始するにあたり、夏季休暇中に歯科開業医を見学する事を通して、具体的な歯科医療やその現状について理解する事を目的としています。見学先は各自で選考できますが、見つからない場合は昭和大学歯学部同窓会会員の診療所を紹介するようになっています。

今年度は30名の学生が参加し、24箇所の診療所を見学しました。そのうち、8名の学生が同窓会会員の診療所を希望し5人の同窓生の先生方にご協力いただきました。終了後、学生にレポートを提出させましたが、実家が歯科医院でない学生が多く参加していたため、実際の歯科医院を見学できたことは有意義であったようです。講義や基礎実習で学んだことが実際の歯科医療現場でどのように利用されているかを見学する事等で歯科医学に対する理解がより深まり、歯科医師になる実感がわいてきたようでした。半日の見学ではありましたが、多くの学生がコミュニケーションの大切さを実感していました。

予想以上に多くの学生が参加を希望し、また実際に見学に行く事ができたのも、24もの開業医の先生方が快くお引き受け下さり、学生達に熱心に指導やお話を下さったおかげと感謝しています。来年度も実施する予定ですので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

診療統計(平成20年9月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,800	700.0	665.4	688.0
入院患者	374	12.5	16.8	13.5

平成21年度昭和大学歯科病院臨床 研修歯科医採用試験

総合診療歯科 長谷川篤司

平成21年度臨床研修歯科医の採用試験が9月6日(土)に実施されました。本年度の臨床研修医募集総数(100名)は昨年度と同じですが、歯科病院内のみで研修する単独型臨床研修として、従来通り2診療科で6カ月ずつ研修するプログラムB(平成20年度50名→平成21年度30名)に加え、総合診療歯科のみで12か月研修するプログラムC(平成21年度20名)を新設しました。歯科病院内で6カ月と学外研修施設で6カ月研修する臨床研修施設群方式のプログラムAは従来通りとしました(平成20年度50名→平成21年度50名)。当日の受験者数は母校を含めた19校、250名(新卒185名、既卒65名)と昨年度の200名から大幅に増加し、このうち本学出身者は127名(新卒102名、既卒25名)でした。特筆すべきは、受験申込257名中の無断欠席者はわずか4名、体調不順との事前連絡者は3名といずれも過去最少でした。

試験内容として面接試験と学識試験が採用され、旗の台校舎5号館(面接試験)と4号館(筆記試験)の2会場を使用して試験を実施いたしました。厳しい残暑の中、受験生はダークスーツで肅々と試験に臨み、本学臨床研修への真剣な意欲が感じられました。

UCSF との学術交流会に参加して

歯科矯正学教室 大学院1年 小野 美樹

私は、今年8月14-15日に、UCSF(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)と昭和大学矯正科との学術交流会に初めて参加させて頂きました。

この交流会は今年で第三回目になります。当科の榎教授が UCSF へ留学したご縁から始まり、2年ごとにサンフランシスコと日本で相互に開催されています。

今年はサンフランシスコで開催され、本学から7名のドクターが渡米し、UCSF からは約20名のドクターが参加して、研究発表と症例検討が行われました。また、放射線学の David Hatcher 教授、口腔外科の Janice Lee 教授らも特別講義をされました。

症例検討では、それぞれの大学で診断された症例を取り替え、各大学のレジデントが診断を発表し、その後、実際の治療過程を見せ合いました。

お互いの症例に対する考え方の違いを目の当たりにして、双方ともにディスカッションでおおいに盛り上がりました。また、UCSF には本校と同じコーンビームCTがありますが、その新しい研究発表や3次元ソフトのデモなど、とても二日間とは思えない充実した内容でした。同じくらいの年齢のレジデント達と会話する事で、より世界的な観点から矯正学を知ることができた

ような気がします。また、会場となった UCSF の同窓会館のコテッジの美しさや Miller 教授をはじめあちらの先生方のやさしさは忘れられない思い出となりました。



歯科病院が敷地内全面禁煙になります

歯科病院長 岡野 友宏

喫煙は古来からの嗜好であって、ときには「薬効」も期待される場所です。しかし最近では国民が公平に負担する医療費が喫煙により増加するという論理から、喫煙は個人の自由であるという主張すら危うくなってきました。神奈川県では「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」にて、官公庁のように代替性の低い施設や健康増進を目的とする施設、多くの人が集まることを目的とする施設などを禁煙とし、分煙を選択できなくなりました。病院や大学がこれに該当することは明らかです。そこで、わが歯科病院も来年2月1日から禁煙とすることにしました。その周知はもとより、禁煙学習の実施や周辺での喫煙対策を講じる必要があるでしょうが、基本的には個人の責任で対応していただきます。よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

10月1日付

吉濱 泰斗: 講師(顎口腔疾患制御外科学)

仲田 泰治: 員外助教(齶蝕・歯内治療学)

編集後記

口腔生理学教室 中村 史朗

記事にもありましたように、9月に第50回歯科基礎医学会学術大会・総会(50周年記念大会)が本歯学部主催で行われ、大成功のうちに終わりました。学会の運営を通して、本歯学部の団結力の強さを改めて実感いたしました。多くの先生方に甚大なるご協力を賜り、深く感謝申し上げます。最後になりましたが、ご多忙の中、ご執筆いただきました先生方ならびに広報委員の先生方に深く感謝申し上げます。